

# 平成24年度 武内小学校校内研究計画

## 1 研究主題

読解力の向上をめざす国語科学習指導の研究  
～対話活動の充実を通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 今日的な課題から

「知識基盤社会」と言われる現代では、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことが重要とされている。さらに、「確かな学力」の基本ともなる言語を扱う国語科においては、言語を通して的確に理解し論理的に思考し表現する能力を育成すること、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成すること、さらには、わが国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことがますます重要になってくる。

平成21年度のPISA調査の結果では、「読解力」や記述式問題の課題に改善傾向が見られた。しかし、情報相互の関係性を理解して解釈（「統合・解釈」）したり、自らの知識や経験と結びつけたりすること（「熟考・評価」）が苦手であることが指摘された。

そこで、新学習指導要領では、国語科や各教科等において「言語活動」の充実が重視された。言語力は、論理的思考やコミュニケーション活動に必要な能力であるばかりでなく、人間の感性や情緒の基盤でもある。そのため、言語力育成は学力向上のみならず、人格形成の上でも重要な要素であると言える。小学校学習指導要領国語では、「自分の考えをもち論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てる」ことが重視されており、「読むこと」の領域では、「目的に応じ、内容の中心、要旨をとらえながら読む能力」を育成することがねらいとされている。

### (2) 児童の実態から

本校は学年単学級の小規模校であり、児童は同学年異学年にかかわらず協力的、協調的である。他方、安易に他人の意見に同調しがちだったり、自分の考えを明確に主張することに消極的だったりする傾向も見られる。そのような中、話し言葉領域及び読解読書領域において対話力育成を図ってきた。児童は、ペア対話やグループ討議を通して対話力を身に付けながら、内容理解を深めるための感想交流や意見交換ができるようになってきている。対話することにより自分の考えを確かめたり、友達の考えを聞き自分の考えに生かしたりすることの良さが、意識化されつつある。

しかし、平成23年度の県学習状況調査の結果を見ると、「読むこと」の領域の正答率が県平均を大きく下回っている。また、CRT学力検査の結果からも、物語文や説明文の読み取りにおいて期待正答率を下回っている学年が多い。人物の心情や段落相互の関係の読み取りにおける正答率が低い。また、本校児童の国語科「読むこと」の学習の様子を振り返ると、教師の発問に対して、文中に書かれている言葉から考えたり説明したりせずに思いつきで答えてしてしまうことも多く見られた。つまり、文章の文脈や叙述に即して状況や様子を正確に読み取ったり、文中の言葉を手がかりに心情や情景を考えたり、要点や段落相互の関係をとらえたりする力が十分に身に付いていないことに起因するもの

と思われる。

### (3) これまでの研究から

本校は、平成 19 年度から 23 年度にかけて、「対話力そのものを身に付けさせる授業」＝「習得」と「対話力を活用する授業」＝「活用」を区別して考え、対話力を読解読書的手段として生かす授業づくりを模索してきた。読解読書領域の授業を通して、各学年に応じた「学習用語」を習得させ、自分の読みや考えを深めるために、習得した「学習用語」を積極的に対話活動に活用しようとする児童の育成を目指してきた。

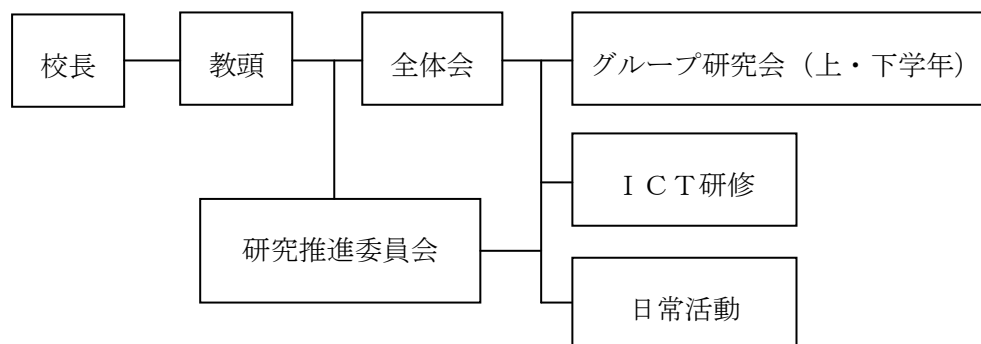
しかし、「対話力そのもの」は少しずつ向上しているものの、読解的手段として活用する「対話力」は、十分に身に付いているとは言い難い。

### (4) 目指す教育目標から

学校経営の重点目標は「言語力を基盤とした確かな学力の向上」である。その言語力育成の鍵は教師の“授業力 “” 指導力”にかかっていると看做す。そのため、本研究では、対話活動の充実を通じた読解力の向上と合わせて、「教師の授業力・指導力の向上」を目指している。授業の流れを“仕組む”ことで児童の思考を促し、児童が能動的に取り組む授業づくりを模索する。そうすることで、学んだ知識を活用し応用できる児童の育成を目指す。

そこで、今年度は、昨年度の研究成果を基に学習指導法を工夫して、児童一人一人に確かな読みの力を身に付けさせることが重要だと考案する。以上のことから本研究主題を設定した。

## 3 研究の組織



## 4 研究の目標

読解読書領域において、対話活動の充実を通して読む力を向上させ、それを実現する指導方法を習得する。

## 5 研究の仮説

- (1) 「書く活動」や「ICT機器」を効果的に設定し、読解読書指導の手段として対話活動を充実させれば、対文章・対筆者への理解が深まり、読解力が向上するであろう。
- (2) 「言語力向上年間指導計画」を基に、児童に身に付けさせたい指導事項を明確に位置付け、指導方法や対話活動を充実させれば、児童は基礎的・基本的な読みの知識・技能を習得し、他の読解読書活動に活用できるようになるであろう。
- (3) 対話活動の充実による読解力の向上を目指す指導方法を実証的に研究すれば、教師の授業力・指

導技術が向上するであろう。「実証的」とは、授業中の具体的事象を臨床的に分析考察し、効果的な指導方法を探ることである。このような授業評価を繰り返すことで、授業中の教師の働きかけや児童の発言やつぶやきを授業に生かす指導技術を伸ばせるであろう。

## 6 研究の具体的な内容

- (1) 「書く活動」や「ICT機器」を効果的に設定し、その指導方法を工夫することで、対話活動が児童の思考を促し、理解を深めるものとなったかを検証する。言葉にこだわりながら文章表現の背後にある事象を読んだり自己の考えを整理したりして読み、作者や筆者の意図を考えながら表現の細かな工夫に気が付き、登場人物や作者の心情に深く切り込んで内容を理解できたかを検証する。
- (2) 指導事項を明確にするために教材分析を行い、文学的な文章および説明的な文章教材をどのように活用すれば児童の読解力が伸びるかを、検証授業を通して探る。検証により明らかになった成果を「言語力向上年間指導計画」にまとめ、系統的な指導に生かせるようにする。
- (3) 検証したいことを授業課題としてあげ、工夫した指導方法が読解力向上につながったかどうかについて、成果と課題を明らかにすることで、教師の授業力・指導技術が向上したかを検証する。

## 7 研究の方法

### (1) 授業研究会

- ア 教材研究から指導案作成まで全体で検討を行い、その結果を全体で共有する。全体検討後は、随時グループ学年において検討会を持ち、改善を図る。授業者は、授業課題を明らかにし、指導法について助言を得て改善を図る。
- イ 授業中における発話発問、板書、教師の働きかけと児童の反応(写真・ビデオ)を記録し、事後検討会に活用する。
- ウ 事後検討会では、授業課題に基づく成果と課題を明らかにする。次の実践のための具体的改善案を検討し、授業を再構築していく。

### (2) 日常活動

- ア 朝の時間に、基礎的・技能育成の時間「すくすくチャレンジ」(朝のスキルタイム)を設け、漢字力の定着や語彙の習得と拡充を図る。(毎日10分程度)
  - 「武雄市漢字検定テスト」の定期的な実施による漢字力の定着
  - 国語辞典活用による語彙の習得と拡充
  - 言語事項(言葉のきまり)の学習プリントによる基礎基本の習得
  - iPadでの言語事項のドリル学習による基礎基本の習得
- イ 学級会、集会活動および学校行事等において、「キャッチボールことば」や「話し合いの進め方」等の習得した対話力の活用を図る。

### (3) ICT研修

#### ア ICT職員研修

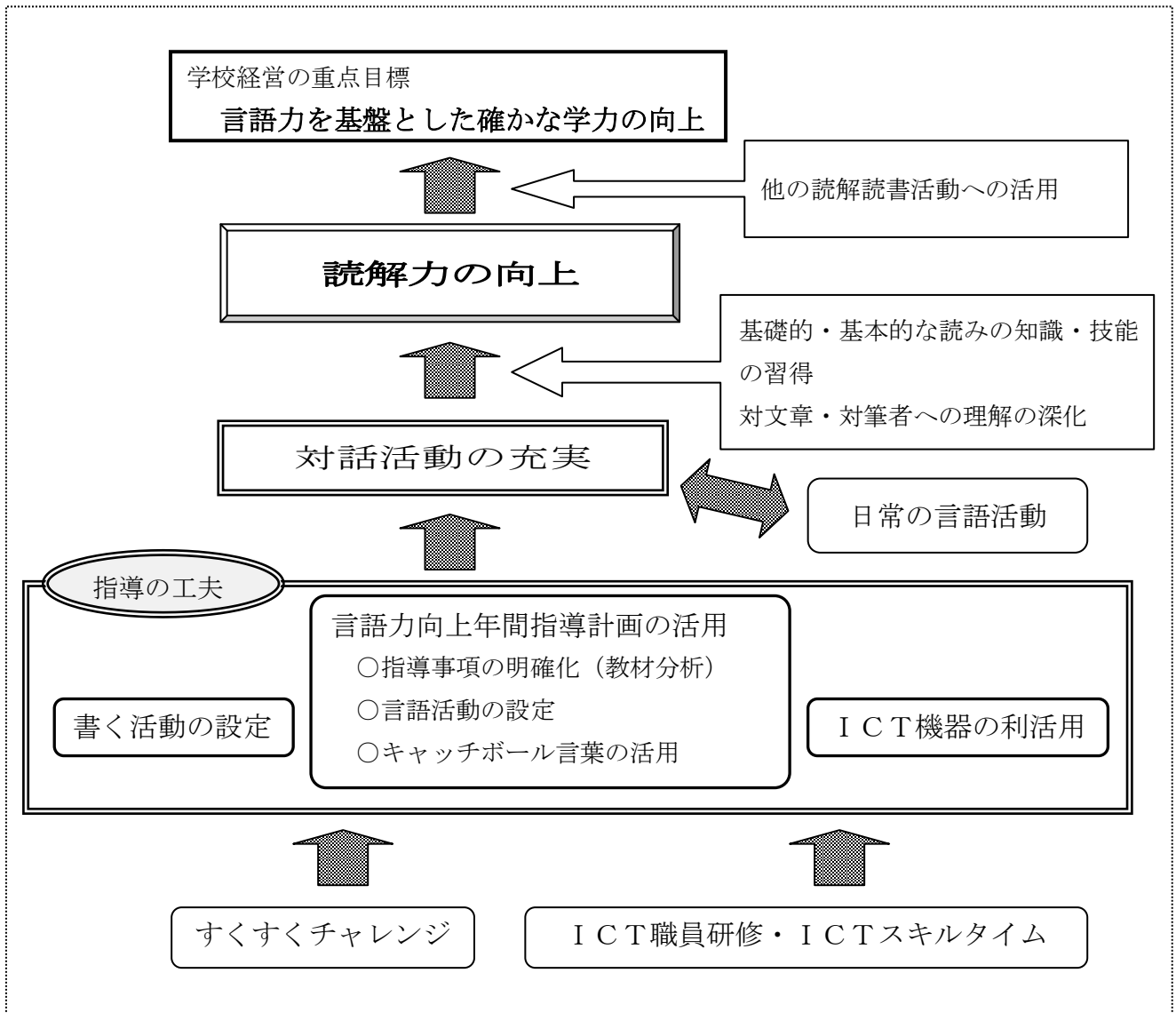
ICT利活用スキルを向上させ、身に付けたスキルを日常の授業や研究授業等で積極的に活用し、

児童の学力向上につなげる。

イ ICTスキルタイム

児童のICT利活用スキルを向上させ、身に付けたスキルを活用して、情報収集活動や表現活動に主体的に取り組む児童を育てる。

8 研究の全体構想図



9 年間の主な計画

月	主な内容	備考
4	4 (水) 研究推進委員会 (研究テーマの検討) 26 (水) 第1回ICT職員研修 (i-pad)	全体研
5	1 (火) 研究推進委員会 (研究推進計画の検討) 2 (水) 第1回研究会 ◆研究推進計画の提案, 研究の方向性の共通認識	全体研

	<p>21 (月) 第2回研究会 (理論研修) ◆教材研究の進め方, 読解力向上に向けた指導方法など</p> <p>24 (木) 研究推進委員会 (研究推進計画の検討)</p> <p>31 (木) 第3回研究会</p>	<p>全体研〈講師招聘〉 (山内西小 橋本幸雄教頭先生)</p> <p>グループ研〈講師招聘〉 (山内西小 橋本幸雄教頭先生) (杵西教育事務所 吉永淳一先生)</p>
6	<p>20 (水) 第2回ICT職員研修 (電子黒板)</p> <p>25 (水) 第4回研究会その1 ◆教材研究, 指導案作成</p>	<p>上学年グループ研〈講師招聘〉 (山内西小 橋本幸雄教頭先生)</p>
7	<p>2 (月) 第4回研究会その2 ◆教材研究, 指導案作成</p> <p>11 (水) 第5回研究会 ◆夏期講座 (国語・i-pad 学習) についての事前検討会</p> <p>18 (水) 第6回研究会 ◆夏期講座 (国語) の模擬授業</p> <p>23 (月) 第7回研究会 ◆夏期講座 (i-pad 学習) の模擬授業</p> <p>27 (金) 第7回研究会 ◆授業力向上夏期講座 (公開授業・理論研修) (授業研①②③)</p>	<p>上学年グループ研〈講師招聘〉 (杵西教育事務所 吉永淳一先生)</p> <p>全体研</p> <p>グループ研</p> <p>全体研</p> <p>公開授業・分科会・講演 (植草学園大学教授 野口芳宏先生) (筑波大付属小学校 二瓶弘行先生) (山内西小 橋本幸雄教頭先生)</p>
8	<p>1 (水) 第8回研究会 ◆夏期講座の反省</p>	<p>全体研</p>
9	<p>12 (水) 第9回研究会 (学力向上対策委員会) ◆全国学力・学習状況調査結果の分析に基づく実態把握 及び各学年の課題解決のための方策</p> <p>19 (水) 第10回研究会 (教材研究・事前検討会)</p> <p>27 (月) 研究推進委員会</p>	<p>全体研</p>
10	<p>17 (水) 第11回研究会 (授業研③)</p> <p>25 (木) 研究推進委員会</p> <p>31 (水) 第12回研究会 (教材研究・事前検討会)</p>	<p>全体研</p>
11	<p>14 (水) 第13回研究会 (授業研④)</p> <p>29 (木) 研究推進委員会</p>	<p>全体研</p>
12	<p>12 (水) 第14回研究会 (教材研究・事前検討会)</p> <p>19 (水) 第15回研究会 (授業研⑤)</p> <p>27 (木) 研究推進委員会 (研究集録について) (授業実践のまとめ①)</p>	<p>学年グループ研 (Web ページ版研究集録作成)</p>
1	<p>16 (木) 第16回研究会 (教材研究・事前検討会)</p>	<p>全体研</p>

	23 (水) 第17回研究会 (授業研⑥) 24 (木) 研究推進委員会 (研究の成果と課題) 30 (水) 第3回ICT職員研修 (情報交換)	
2	13 (水) 第18回研究会 ◆研究収録の執筆 20 (水) 第19回研究会 ◆研究の成果と課題並びに次年度への展望	個人  全体研
3	6 (水) 第20回研究会 (研究集録完成) ◆年間の反省と次年度へ向けての改善検討	全体研

\* 全学年, 研究授業の公開を行う。

## 10 期待する研究の成果

- ・ 国語科授業において, 児童は, 学習課題について多様な考えを出し合うなどの「拡散的思考」により, 位置付けられた対話活動の中で, 設定された対話(条件)に即して整理・吟味できるようになるであろう。また, 読み取ったことを「収束的思考」へと向かわせる中で, 対文章・対筆者への理解を深め, 読解力や思考力を伸ばすであろう。さらに, 学習事項を身に付け, 対話力を活用して読みを深めることができるようになり, 他の読解読書活動においても読解力が向上するであろう。
- ・ 自分と相手の思いや考えについて, 「何が同じ」で「何が異なるか」という視点で整理しながら, 相手の話をしっかり聞き取り, 受け止め, 状況に応じて的確に反応することができるようになるであろう。さらには, 相手の立場や考えを尊重し, よりよい人間関係を築こうとする児童が育つであろう。